

MOBILE SUIT VARIATION

MSV

Hand
Book

3

模型情報・別冊MSバリエーション ハンドブック

機動戦士ガンダム

BANDAI



■ディオラマ特集

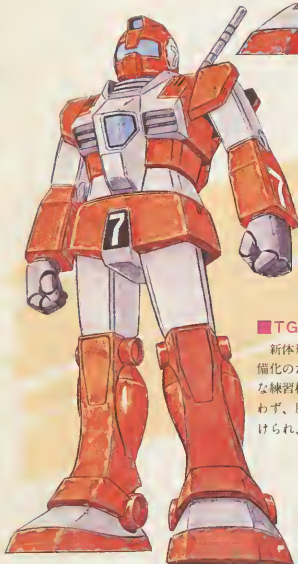
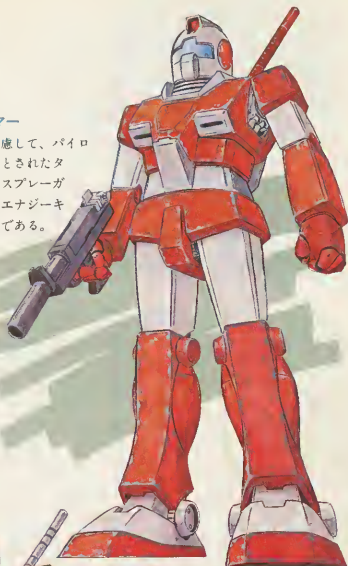
カスタム・モビルスーツ RGM-79ライトアーマー TGM-79ジムトレーナー

MOBILE SUIT VARIATION

メカニカルデザイン
 大河原 邦男

■RGM 79ライトアーマー

ビーム兵器戦である事を考慮して、パイロットの要請で徹底した軽装甲とされたタイプ。ハンドガンは、ビームスプレーガンでは無く、ガンダム同様のエネルギーキャップ方式によるビームガンである。



■TGM 79ジムトレーナー

新体形の兵器であるモビルスーツの実戦配備化のため、シミュレーションの他にこのような練習機も使われた。装甲材は良質の物は使わず、胸には上下タンデムのコクピットが設けられ、教官席はガラスウィンドで覆われる。

MS-06R-2 ジョニーライデンの製作

草刈健一



MS-06R-2は、次期宇宙用汎用モビルスーツ選定の折にMS-09リックドムと争ったMS-06R-1Aのパワーアップバージョンである。当時MS-11として開発中であった後のMS-14ゲルググのビーム兵器の装備化が遅れており、予想外の性能を示したMS-09によって配備数の大半を奪われる事は、戦時下でも多額の開発費を投じていた兵器メーカー「ZIONIC」にとって大いなる痛手となる。そこで急遽MS-09の競作機とし

て白羽の矢があてられたのが、高機動戦用ザク「MS-06R」であった。少数生産に終わった同機はスベック上は高性能ながらも基本設計がその限界点を数多く持ち、その扱いのクセの強さから一部のパイロットに使用されたにすぎなかった。しかしながら宇宙戦用兵器としてはFタイプをはるかに上回るスーパーマシンで、そのコストが見合わないのが実際の生産中止理由であったとも言われている。

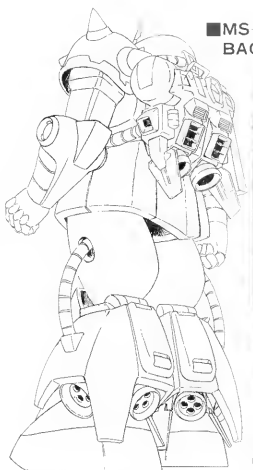
「ZIONIC」が競争に際し提出したのは、R-1Aタイプを改修して、脚部装甲の強化、燃料搭載量の18%増大化、各部装甲材の高質化、後のMS-14でも取り入れられたスライドコンソール採用によるコクピットへのダイレクト・イン搭乗方式への変更等を行なったMS-06R-2である。最大戦速での戦闘パターン、機動性ではMS-09など足元にも及ばなかったが、作戦行動時間の単位兵器搭載量の問題はいかんともし難く、総合性能では敗れた結果となった。主力モビルスーツをO7タイプ以降奪われたZIONICの急場しのぎではあったが、4機製作されたプロトタイプ（というよりカスタムアップR-1A）は、研究用機1機を除いて全てエースパイロット回しとなっている。

戦線に投入されたR-2でも最も有名なのは、愛機を真紅に塗装したジョニーライデン少佐機である。少佐の乗機が派手故に高名かと言うとそうでもなく、むしろ戦後の記録集における少佐機の写真が、当初「赤い彗星」「ことシヤア」アズナブル大佐の乗機と間違っって紹介された事による所が大きい。

ジョニーライデン少佐は、サイド3への第一次移民の3世で、旧オーストラリア大陸から宇宙へ昇ったジオンには珍しいアメリカ系の血を持つ男である。22才の時にジオン国防軍へ志願、一週間戦争の際は自分の成せる術が、すでにMS-06Cのパイロットとして曹長の座にあった。ライデンが戦艦3隻目の撃沈で大尉に昇進すると、愛機MS-06Fは真紅と黒の塗装が施され、少佐に昇進後Rタイプの要請もれを経てR-2へ乗り換えたのである。R-2タイプでの活躍は、大戦後期の戦闘激化に乗じて凄まじい物であり、戦闘記録に残る裏付けともなっている、とは言えその時間は比較的短かい物で、少佐自身は本国の要請によって旗艦キマイラ（ザンジバル級機動巡洋艦）下のエース部隊へ転属となっている。少佐自身はこの部隊でMS-14BとMS-14Cの両方に乗っているが、その後のア・バオア・クーの攻防戦以降の消息は明らかではない（解説／小田雅弘）。

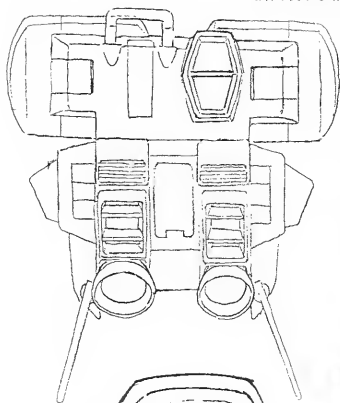
作例は1/144 MS-06Rをベースにして、ランドセル、脚スカート、ヒジ、左アーマーのスパイクを改造してある。R-2タイプはランドセル燃料房が大型化されており、横軸ドラムの直径が大きくなるのでランドセル上面にドラムのアールが若干出る様になっている。形状変更された制御ロケットと共にプラ板で作直した。スカートもプラ板の貼り合わせで、強化リブは別おこしのハメ込みとしてある。スパイクはプラ棒3mmからの削り出し、ヒジは関節の動きを殺さない様に一度くり抜いてから内軸とフタをとりつけてみた。（草刈健一）。

■MS-06R-2
BACK VIEW

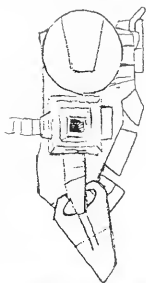


■MS-06R-2 ランドセル

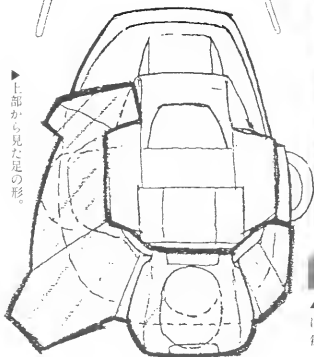
R 2タイプでは、背部と脚部のカートリッジが大型化している。殊にランドセルのドラムは、直径も大きくなり、左右の長さも増している。作例ではプラ板から作った自作ドラムをランドセルに接着、上端のふくらみと共に、本体とのつぎ目を入念に消した。



▶R 2のチェックポイント。ランドセルの細部はかなり異なる。



▶上部から見た足の形。



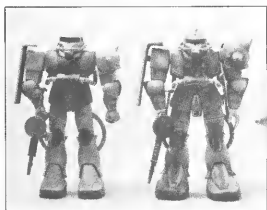
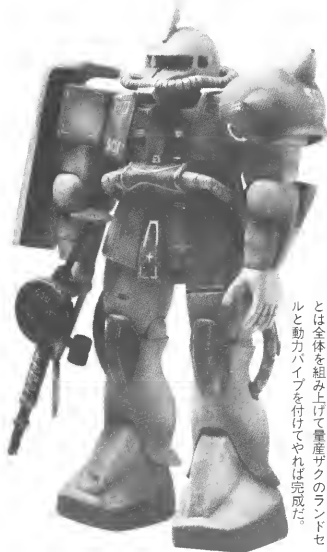
▲R 2最大の特徴は脚の装甲板だが作例では全てプラ板の貼り合わせて製作した。各面に作らないと完成時に裏から見えてしまう。

ベストプロポーションザク製作

小沢勝三

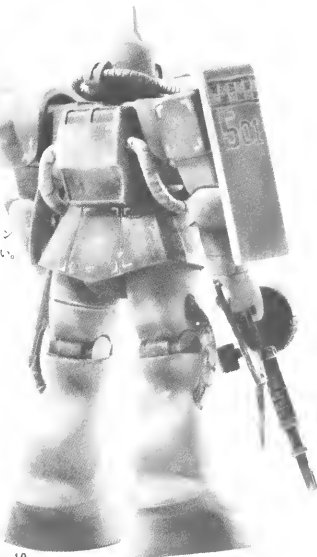
ガンダムプラモを作っているモデラーなら一度は作ってみたいと思うのが……このザクをベストプロポーションにしたもの。MSVキットMS-06Rは旧キットに不満をもっていたモデラーも充分納得。それではと言うわけでこのRタイプをベースにして旧ザクの足と1/144量産型ザクのランドセル、動力パイプを使い、三身一体ベストプロポーション変化といきましょう。さっそく改造点と言うと、前記の三つのキットさえ手もとにそろえられれば部品の組み

合わせだけなので初心者モデラーでも充分作り上げられるレベルのものです。まず頭、腕、体等は06Rのものを説明書通りに組み立ててしまおう。次に、06Rの足の部品を組み両サイドの穴を旧ザクの脚パーツのピンに合うように広げてやる。旧ザクの脚部品に量産ザクの動力パイプを通すための穴をあけてやる。穴はドリルで2つの穴をあけ、広げるようにしてつなげるのがコツ。06Rの股関節の部品は旧ザクのものよりやや細いのでセロテープをまいてやる。あとは全体を組み上げて量産ザクのランドセルと動力パイプを付けてやれば完成だ。



▲旧キットの量産型ザクとベストプロポーションザクとの比較写真。この迫力の違いを見てほしい。

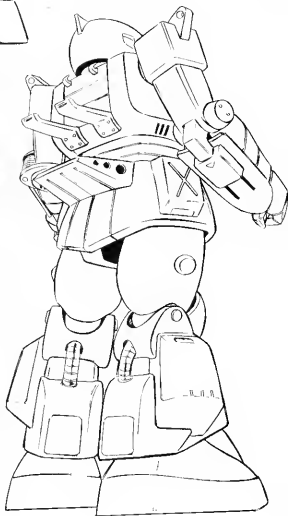
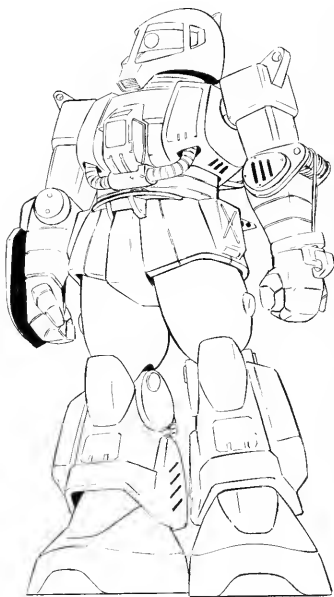
▶MS-06J(F)のリアビュー。作例ではランドセルの部分は量産型ザクのものをもそのまま使用しているがデザイン画などを見るともっと厚みがあるのでプラ板などを使ってもう少し厚みをつけてやった方が良いでしょう。旧ザクの脚は、1/144量産型ザクにくらべるとかなりポリウムがあるのだが、06Rの上半身に取り付けると細身に見えてしまう。そこで、MS-06Eザク強行偵察型の太腿がかなりのポリウムになっているので、このパーツを流用することを薦めたい。



作業用ザク

左に示される物は、型式番号上の分類が成されていないザクである。戦後の記録から確認する限りでは、大戦中期近辺のアジア西部あたりにこの作業型を見る事ができるが、特徴としては、背部ランドセルが削除され、荷物デッキが二段になり、コクピットは張り出し式のセンターマウントでMS-06Vザクタンクのコクピットと同じ型の物が使用されている。(おそらくジオンで使われていた建設作業車のコントロールボックスの流用と思われる。)また右腕にはスライド機構を持つ大型スコップ、左腕には関節のギアを利用したウィンチが取り付けられ、ヒザ下の外形はザクと大幅に異なる。脚外側にはバケットが設けられ、モビルスーツ用整備用具や作業用オプションが収納されている。

型式番号を持たないこのザクも、全くの謎の機体ではなく、ジオン公国が当初対外向けに発表したMS-05ザクIには、宇宙空間での作業用オプションが偽装されており、ある意味では外形が近い物であった。分類されなかった理由の一つには、ベースにする機体の種類



を限定していない事である。すなわち、地上での行動性能の思わしくない05タイプをベースに使う場合が多い物の、頭部は05であったり、06であったりするし、脚の部分も両者が見られる。(06である場合は、脚のケーブルがカットオフされている。)また胸部が06の場合、背部ジェネレーターが上半分残され、ケーブルは背部へ回されている。恐らく作業用オプションパーツのみ製作して支給したと考えられる。時期を考えると、二脚歩行を残している事から、ザクタンク以前に使われた物で、能力不全モビルスーツの活用例であろう。

外見的にはザクの腰の装甲が取りはずされ、ドラムウェストの機構がよく解る。同軸の橋脚に対し、上下面のスウィングで左右へ約45°ずつの可動が可能で、作業用ハンドの改良で、背面での作業も立ち位置を変えずに行なう事が出来た。型式的にはMS-06Vへつながるタイプだが、大部分は戦闘用に再武装されたと思われる。



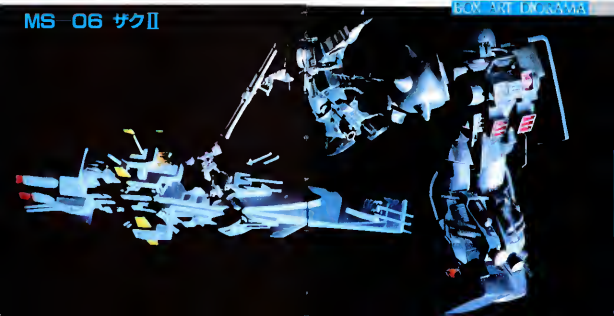
Q5 Rは車載から1/14、1/20、1/30、マゼランは1/100スケール。1/14 Q5 Rは球のつのおはしはエアーソフトガンの弾丸にふくまを仕掛けたものに換え、モノアイも発光するようにしてある。車庫は内蔵に収めたかったが水銀電球の筐体はパワーが足りず、リード線を外に延ばしてある。改造箇所は動力バンプを市販されているコイル状スプリングに2つに位である。

網際ネットワークの世界になっている。パイプも、
 イルチスプリングに作り換えた。1/200R
 Rはテイオラマゼットのザクからの改造である
 が、今ならエロプロのザクをベースにしてもい
 だらう。また、スケールは1/30になるが、最
 小チヨコスナックのおまけキットにも06R、
 06R、YMS-00等のMSVが加わったの
 で、これを使おうと決めた。

「**ザ・シムス**」と題してエニキアンを
使用して改造した。また、既述の機密データレシ
グをくぐり抜けたミルセルで急ぎに
間違った格闘クリオナジンを脱出した。ホ
ソクストの石にあふみサイバネズンが熱し
ましたが、激なトルクギラメルのわめきッ
トを使用してよいというた。

製作 脚本兼演出：山一 堀OSG、小林
正義二 堀OSR、マゼン
宮原雄太 ナビシヤパン
ORIGINAL

MS-06 ザクⅡ



GUF LADY

ダフレディは中央アジアのサイラス=ロッタ中尉のパーソナルエンブレムである。

写真上はラムちゃん改造の足パイプア（製作／小沢

下は、大洲田海防隊が製作した
山に雲を映して模写した物

（協力） 糸巻



BOX ART DIORAMA

MS-07H
グフ飛行試験型

MSQ77Hは、輸送販売を野村キャプ
ルシアのシフトバスからツリゾンのフラツ
トニアの空港基地へ運ばれた。パイロットの列
着したその日、早速第一アックン北側の平地に設
置かれたその日、調整運転は行なわれた。各種機
械が格段され、調整運転は行なわれた。各種機
械車種に加えて、化学的防衛が次に配備され
る。試験機は地表を飛行して、基地側
も監視機がはまりついている。陸空両面とも言
う他の基地には監視のモニタリングが周囲に配
置され、その物々しさはいやがににも伝わって



テラ・マリアベールは石巻で製作された映画から、数通気からの建間パッツやアツチの作られたトウファク、トレイラー、扶輪会等の各組織は七十六分の一、置分の一、種々な物を通じている。Q7の後半のMSはおまけ「ソートとー」Q8では「ソート」をストレイトに読んだらのだが、動かすQ9は作り替えてある。飛行場にはピアノ機でQ10を支え、それに旗を立てるというオールドフックスな手紙で送った。

製作：小沢隆三(オーストラリア)・ワーエスプロダクション
写真提供：コックアップンペン・SBS（2006年）

